

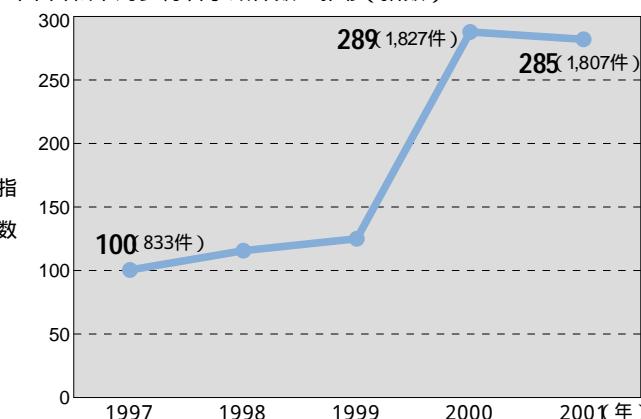
# 混合交通を観察する DOCUMENT EYE

series-158

自転車横断帯の利用状況は?  
● WHY

自転車の保有台数は全国で8500万台以上とも言わ、2人に1台以上所有しているペピュラーな乗り物だ。だが、手軽な一方で自転車にかかる交通事故は増加傾向にある。大半が対四輪車事故なのだが、対歩行者の事故も少なくない。自転車と歩行者が接触する事故は、最近5年間で約3倍に増加している(図)。自転車を利用する際に交通ルールやマナーが守られない場合が非常に多い。

図 自転車対歩行者事故件数の推移(指数)



# 自転車横断帯を利用した自転車 347台中1115台

自転車横断帯の利用状況を観察する

渡った自転車わずか3台  
● WATCHING

自転車横断帯が設置されている横断歩道で、自転車利用者の横断状況を観察した。



うだらつか。  
自転車横断帯が設置されている横断歩道で、自転車利用者の横断状況を観察した。  
だが、実際はどうだらつか。  
自転車横断帯を押して歩道を渡る際は、自転車を押して渡るか、自転車横断帯がある場合はその自転車横断帯を走行する必要がある。

横断歩道を押して渡った自転車わずか3台  
● PROPOSE

観察場所は東京・世田谷の国道246号駒沢交差点(片側3車線)。周辺には大学や住宅地が広がっており、子どもから高齢者まで自転車の利用者は多い。

観察の結果、1時間で交差点を横断した自転車は347台で、自転車横断帯を利用したのが115台(33・1%)。横断歩道を通行したのが232台。このうち自転車を押して渡ったのはわずか3台だった。横断歩道上では自転車と歩行者が両方向から混在する無秩序な状況となり、いつ接触してもおかしくない状況であった。また、自転車横断帯を歩いていた歩行者が60人(電動車いすを含む)さるに原動機付自転車が2台、それぞれ観察された。

自転車は「軽車両」  
自転車横断帯を利用しよう  
● PROPOSE

このほか、携帯電話を使用しながら走る自転車、赤信号で渡った自転車も数台いた。また、横断中に右折・左折している自動車やバイクが横断者の妨げになつたり、停止線を越えて横断歩道上や自転車横断帶上で信号待ちをするクルマも2台観察された。

自転車に乗るには免許がいらない。が、自転車は軽車両であり、交通ルールを守ることが事故を防ぐ基本となる。横断歩道周辺では、自転車と歩行者の接触、衝突が大きな事故につながりかない。自転車に接触された歩行者が転倒して頭部を強打、自転車が加害者になつて、実際に3700万円の損害賠償が言い渡されたケースもある。

自転車を利用する際は、常に歩行者へ



の心配りを忘れず、交通標識など交通ルールを守ることが大切。道路を横断する際は自転車横断帯を利用。自転車横断帯のない場合は、自転車を押して横断歩道を渡るという基本ルールを守ることとともに、大人は子どもたちの手本となるように交通ルールの再教育を検討する時期にきているのではないか。

自転車の「自転車横断帯」利用状況(347台中)

自転車横断帯の利用	利用した(115台)		利用しない(232台)		計
	あり	なし	あり	なし	
小・中学生	1	10	1	20	32
高校生・若者	9	44	5	95	153
大人	4	44	1	95	144
高齢者	0	3	1	14	18
計	14	101	8	224	347

自転車以外の「自転車横断帯」利用状況(62件中)

歩行者	左右確認		あり	なし	計
	小・中学生	高校生・若者	あり	なし	
大人	0	16	16	16	16
高齢者	0	10	10	10	10
電動車いす	0	1	1	1	1
原動機付自転車	0	2	2	2	2
計	1	61	61	62	62

「小・中学生」「高校生・若者」「大人」「高齢者」の区分は観察者の見解  
1時間に観察できたものについて記載